

真実のガン治療に向けてII

- ① ショッキングな本 6
- ② 何故私がこの記事を取り上げたのか? 7
- ③ 何故、三大治療は良くないのか? 7
- ④ 三大ガン治療はどこまで効くか? 7
- ⑤ 「寛解率(奏効率)と治癒率」 7
- ⑥ カナダでの抗ガン剤使用は5%と極めて少ないが、一方、日本での抗ガン剤使用はほぼ100% 8
- ⑦ 西洋医療の間違いを確信した時 9
- ⑧ アメリカでの発表 10
- ⑨ O.T.A(アメリカ議会技術評価局)の発表 11
- ⑩ O.T.Aのガンレポート(1990年)のまとめ 13
- ⑪ 抗ガン剤に完治はない 13
- ⑫ 抗ガン剤をやる条件 14
- ⑬ ジャーナリスト立花隆氏のある報告 14
- ⑭ 未来の抗ガン剤 16
- ⑮ 放射線治療ならどうだろう? 16
- ⑯ 三大医療を求めたミセラブルな話 18
- ⑰ 手術は「必要悪」の意味 19
- ⑱ 手術は意外と失敗例が多い行為 20
- ⑲ 手術する場合の心構え 20
- ⑳ 手術はどんな後遺症(ダメージ)が起るのか? 21
- ㉑ 手術の後遺症(ダメージ)の解説 21

① ショッキングな本

ショッキングな本が出ました。盟友、船瀬俊介氏の最近の著書のことです。「ロックフェラーに学ぶ、悪の不老長寿」なる本です。彼の本はどんな物でもショッキングな物が多い。今回もまたまたそうでした。今回の本のタイトルは何となく恐ろしそだが、読んで見ると実に頷ける、正当な内容であり、真実に満ちています。

その中で私が真っ先に興味を持った記事があります。それは次の内容です。(ガン治療拒否で4倍以上も生きる)というタイトルとその内容。「ワシントン大学 H・ジェームズ教授は徹底的な調査で衝撃事実を突き止めている。ガン治療を受け入れた人の平均余命は、何と！わずか3年。受けなかった人の平均余命は、何と12年と6ヶ月。治療を受けないガン患者の方が4倍以上も生きる」とした記事です。ここには、「治療を受けなかったガン患者は、病院治療を拒否しただけ。それだけで4倍も長生きした。では早死したガン患者は、ガンで死んだのか? そうではない。彼らは、「ガン治療」という名の詐術で騙され、その結果、虐殺されたのである」と書かれています。

凄い内容です。これが事実なら、正に西洋医療のガン治療なんて全くいらないとすら言える内容です。しかし、この記事には問題があります。あ



まりにも短く結論しか書かれていないことです。条件や場所、そして実験時間がまるで書かれていません。何と言っても、H・ジェームズ教授という人がもしかような調査をやったとしたら、次が書かれていなければ話になりません。

「これだけの大学や医療期間を用いて、どのくらいの人数のガン患者を調査したか? 更に、ガンの種類(何ガン)は何種類で、何というガンに対しておか? そして更に、どのくらいの年数を調べたか?」どの学術誌で報告されたのか? ということが最低限書かれていなければ、本当がどうかは分かりません。また、学術報告誌の何に載っていたのかも書かれていません。となると、事実かどうかも疑わしくなってしまう。それ故、医者たちの間ではこの記事が載った所で、少しも取り上げないだろうし、無視されているの間にか消えるような話となるでしょう。それでも私が今ここで、あえてこの記事を取り上げたのは理由があります。

② 何故私がこの記事を取り上げたのか?

きつこの記事は本当のことでしょう。多分、何かの学術誌で報告されたものであろうと思われま。しかし、もしそうでないとしても非常に信憑性のある内容であることは確かです。つまり、間違いのない報告と思われま。それは、この記事を裏付けるような出来事が、実際掃いて捨てるほど行われていると思われまからです。「ガン治療をするからかえって悪化」、これは医学関係者では誰もが知る事実なのです。更に言うと、「西洋医療におけるガン治療」を受けると短命化する」ということも紛れもない事実なのです。ガン治療のみならず、他の治療でもそう。クスリも放射線も手術も、実は大変恐ろしい治療法なのです。

③ 何故、三大治療は良くないのか?

今の病院や医院での西洋医療は大雑把に言って次の3つしかありません。

- (1) 手術
- (2) 西洋薬
- (3) 放射線

この3つです。逆に言うと、この3つしかないのです。そして、この3つとも極めて重大な問題点があります。この中で唯一根治が可能なものは、やはり(1)の手術でしょう。ただし、根治が可能な場合があるというだけで、これとて実は大問題があるのです。今回はこういったことを書いてみたいと思います。

④ 三大ガン治療はどこまで効くか?

三大治療とはもちろん、抗ガン剤、放射線治療、そして手術です。まずこの中で完治があるのは手術だけです。この手術も条件が悪かったり、拡大した手術をし過ぎたりするとなかなかありません。

このことは後々記したいと思います。最初に、いかに「抗ガン剤」と「放射線治療」が恐ろしいものか、効果のないものかを記してみたいと思います。まず「抗ガン剤」についてです。

⑤ 「寛解率(奏効率)と治癒率」

ガン治療の有効率を示すのに、寛解率という言葉があります。これは治癒率とは全く違うことです。「4週間でガンが1/2以下になった場合(C.T)を言う言葉」を指す言葉です。奏効率(しんこうりつ)という言葉もあるが、寛解率と全く同じと考えて良いものです。この寛解には、「完全寛解」と「不完全寛解」とがあります。

○完全寛解とは、抗ガン剤投与後4週間してガンがレントゲン線やC.Tで全く見えなくなった場合を指す言葉です。

○不完全寛解とは、抗ガン剤投与後4週間して、ガンがレントゲン線やC.Tで1/2になったことを指す言葉です。完全寛解しました、ガンがまるで見えなくなりました、と言ったところで、ガンが全く居なくなった訳ではないのです。

1000万個ウロチョロと流れていても、肉眼ではまるで見えないのがガン細胞です。ガン細胞は肉眼では決して見えないのですが、抗ガン剤投与を行うようなガン患者さんの体には、見えないガン細胞が必ずウロチョロと流れているのです。

要は、寛解とはガンが完治したわけではなく、その所のガンがただ単に少なくなったか、居なくなっただけの話です。

ガンが消えたように見えるのは、もしかして逃

